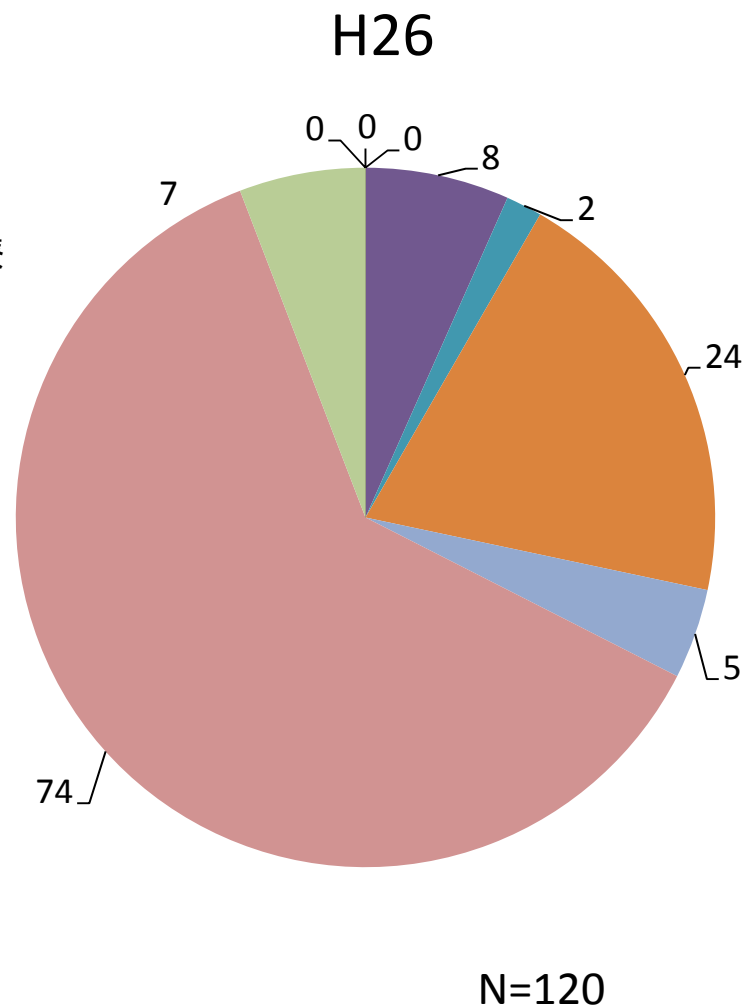
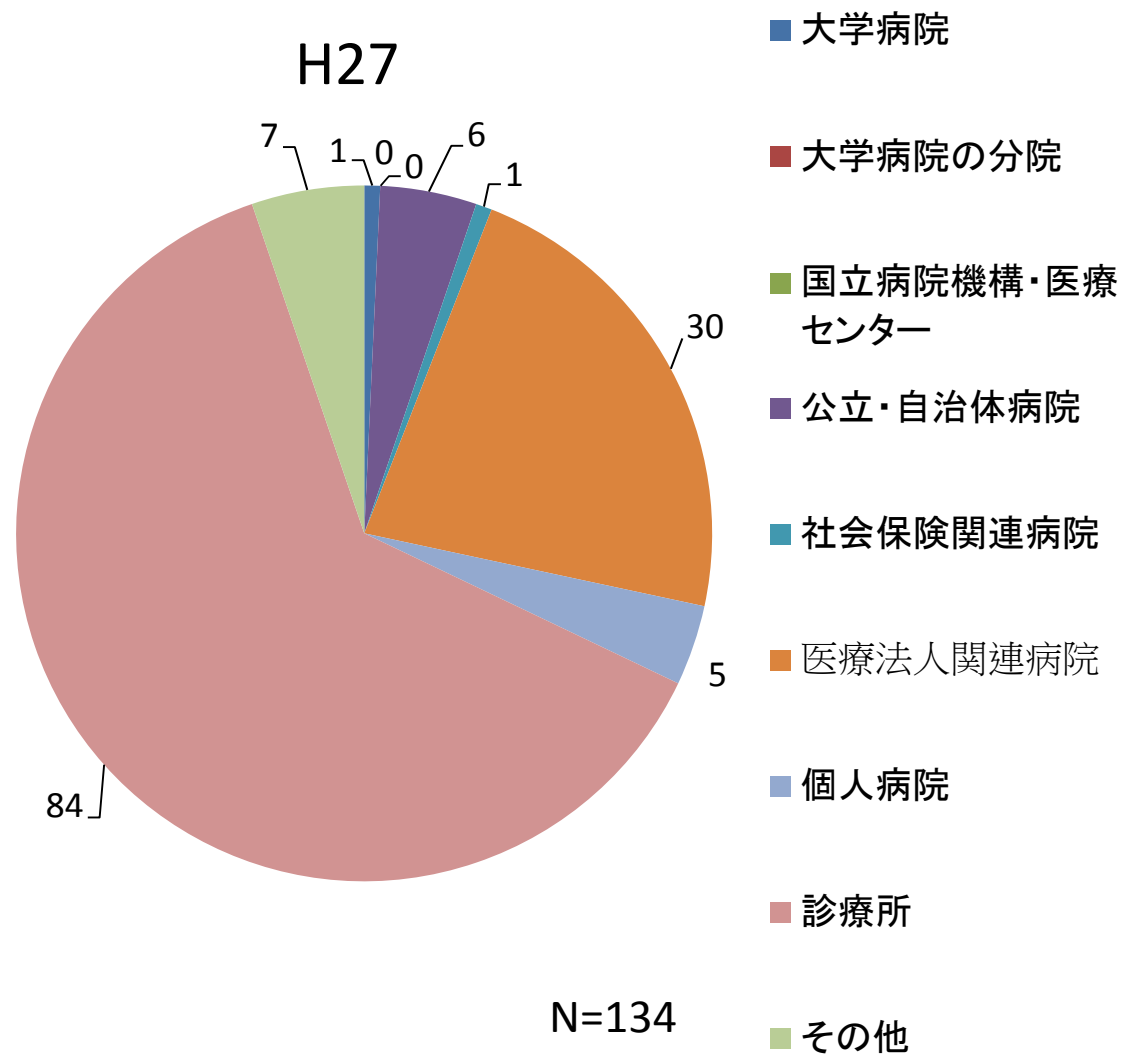


病院外輸血

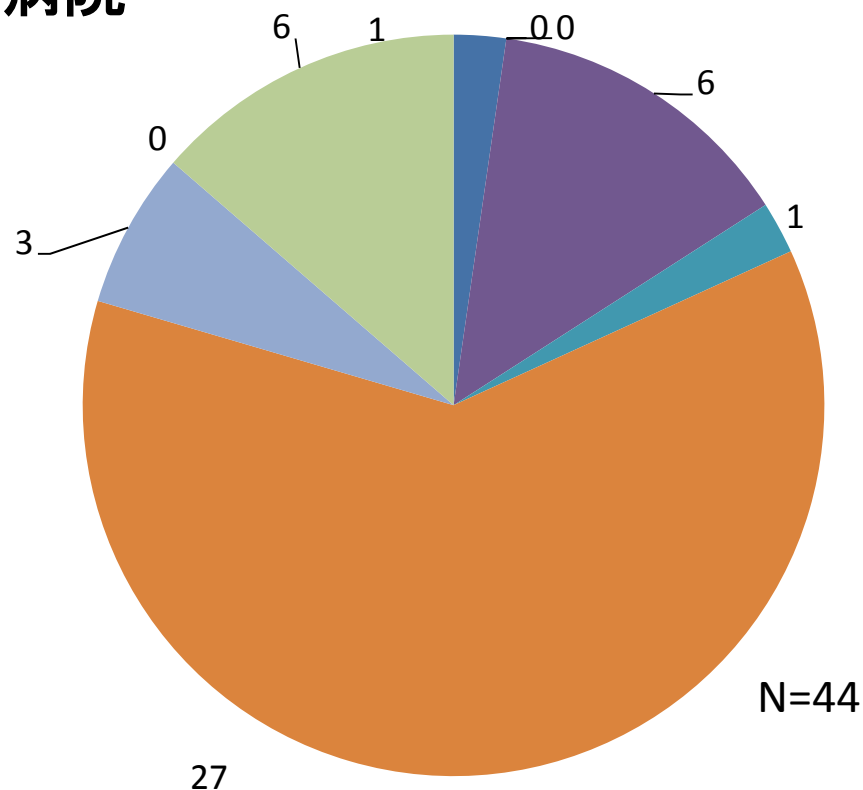
青森県立中央病院 臨床検査部
福島県立医科大学 輸血・移植免疫学
北澤淳一

病院外輸血実施施設形態

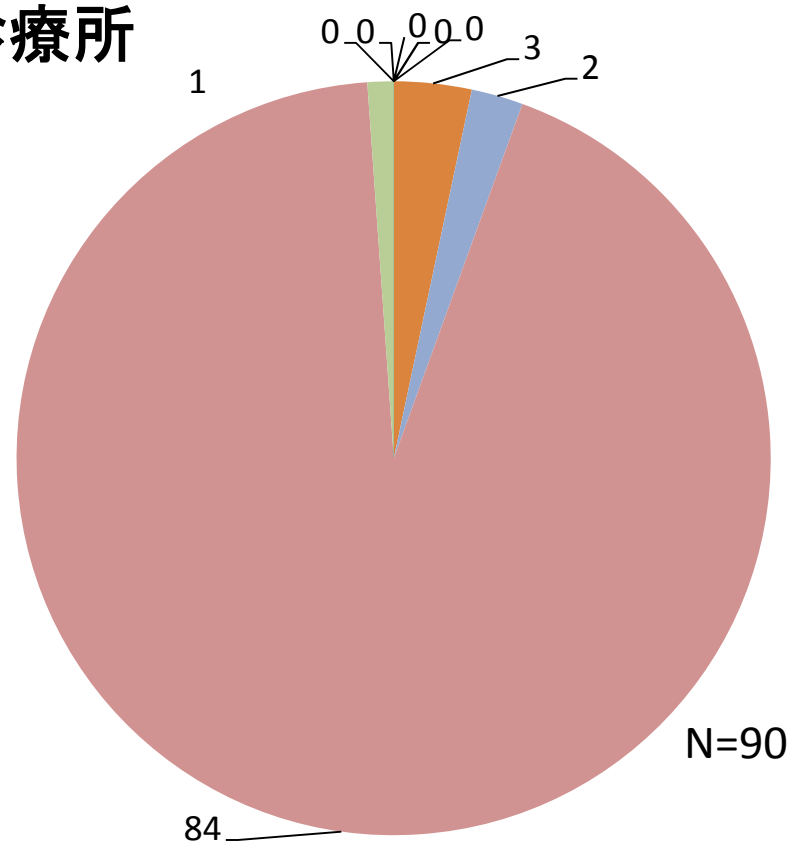


病院外輸血実施施設形態

病院



診療所



■ 大学病院

■ 公立・自治体病院

■ 個人病院

■ 大学病院の分院

■ 社会保険関連病院

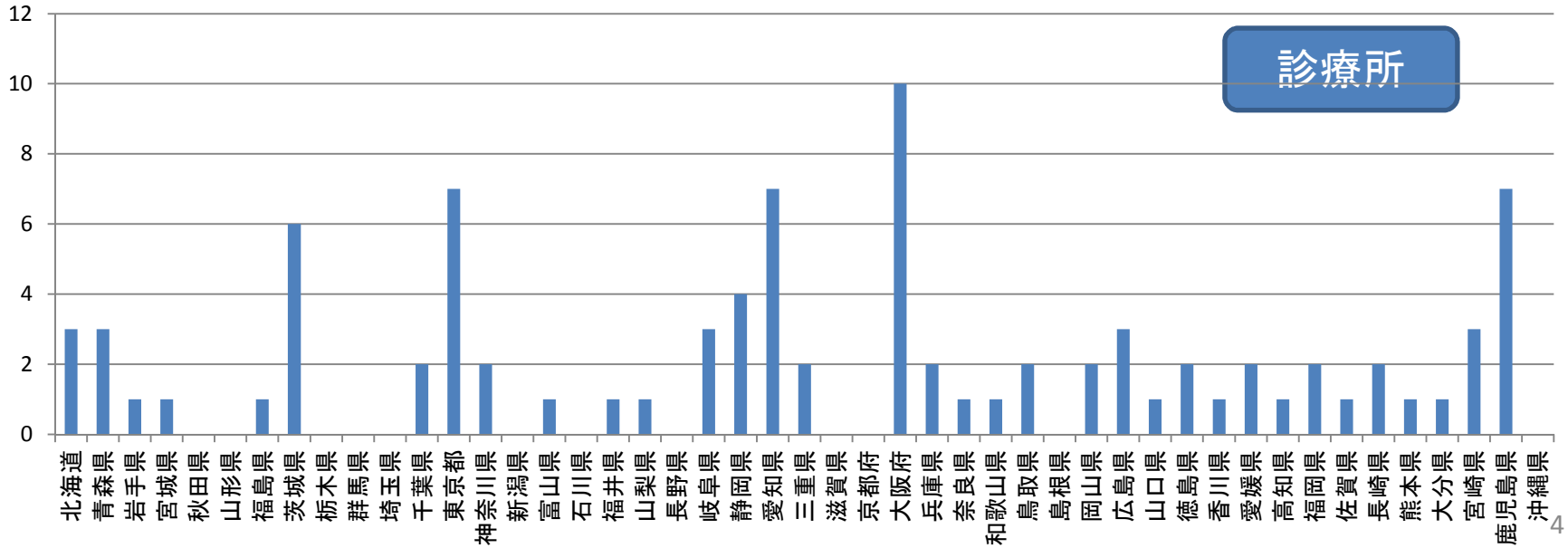
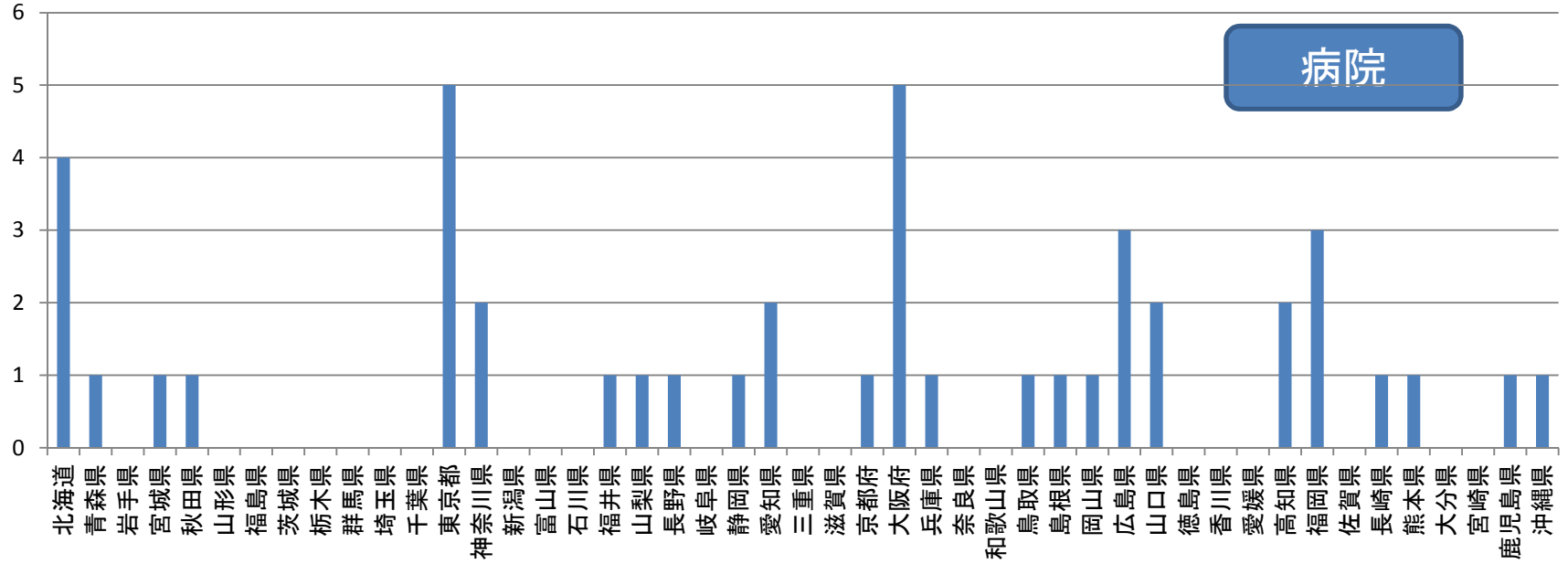
■ 診療所

■ 国立病院機構・医療センター

■ 医療法人関連病院

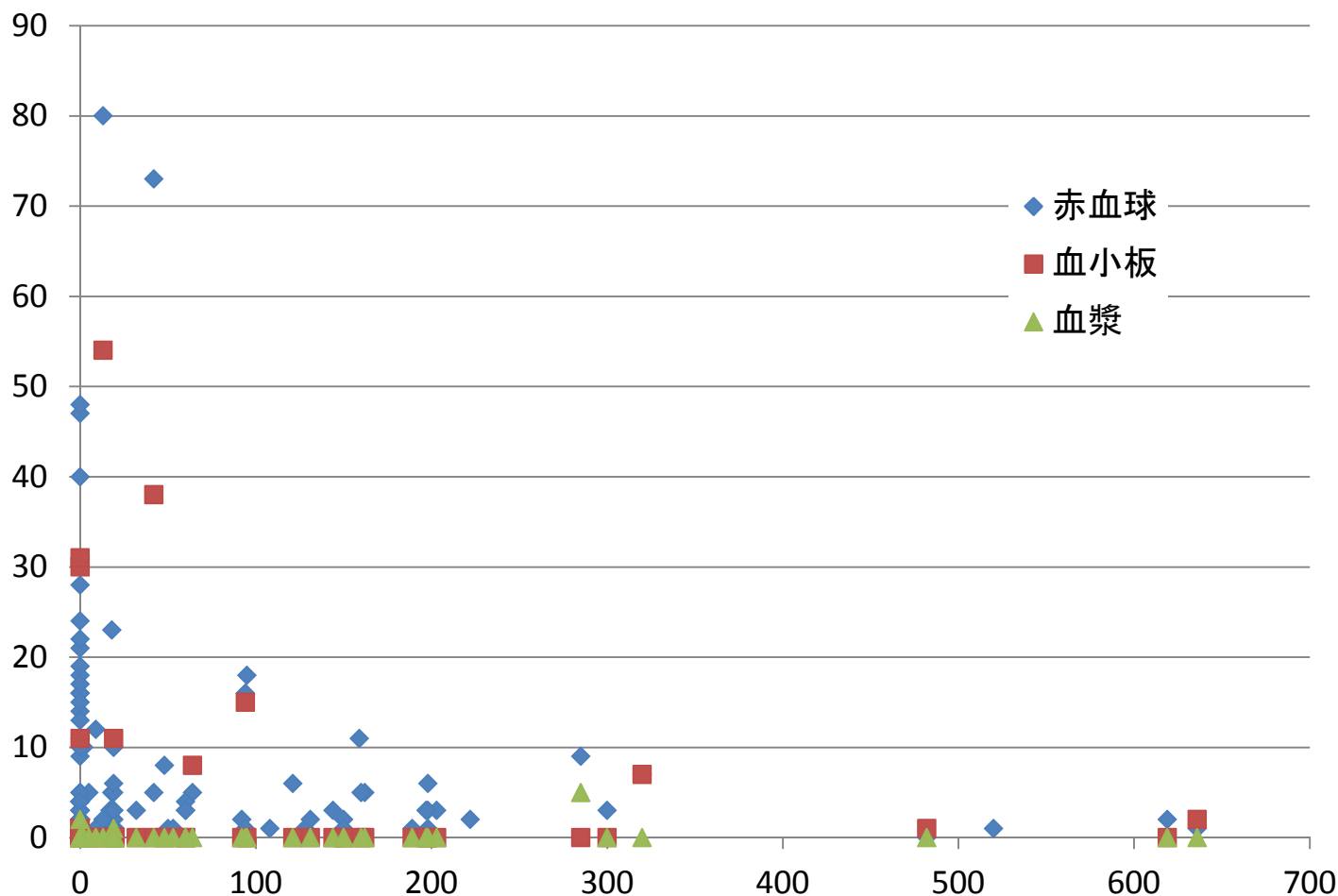
■ その他

都道府県別回答施設数



病床数と輸血件数

輸血件数

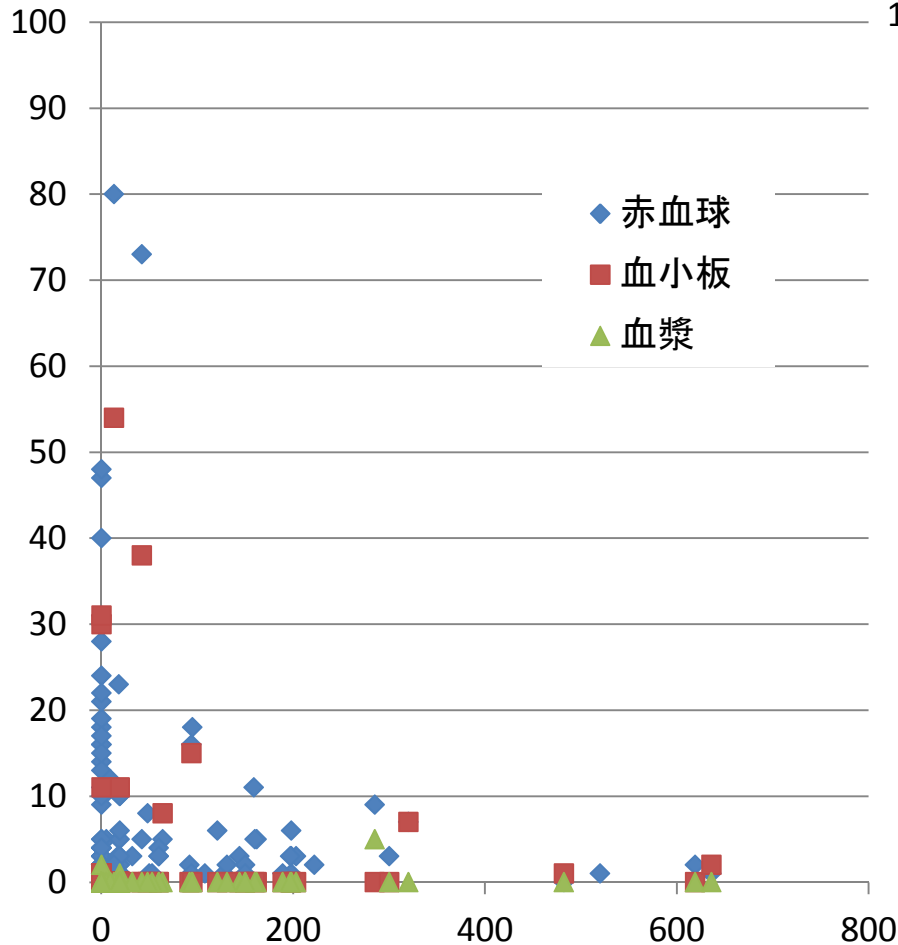


病床数

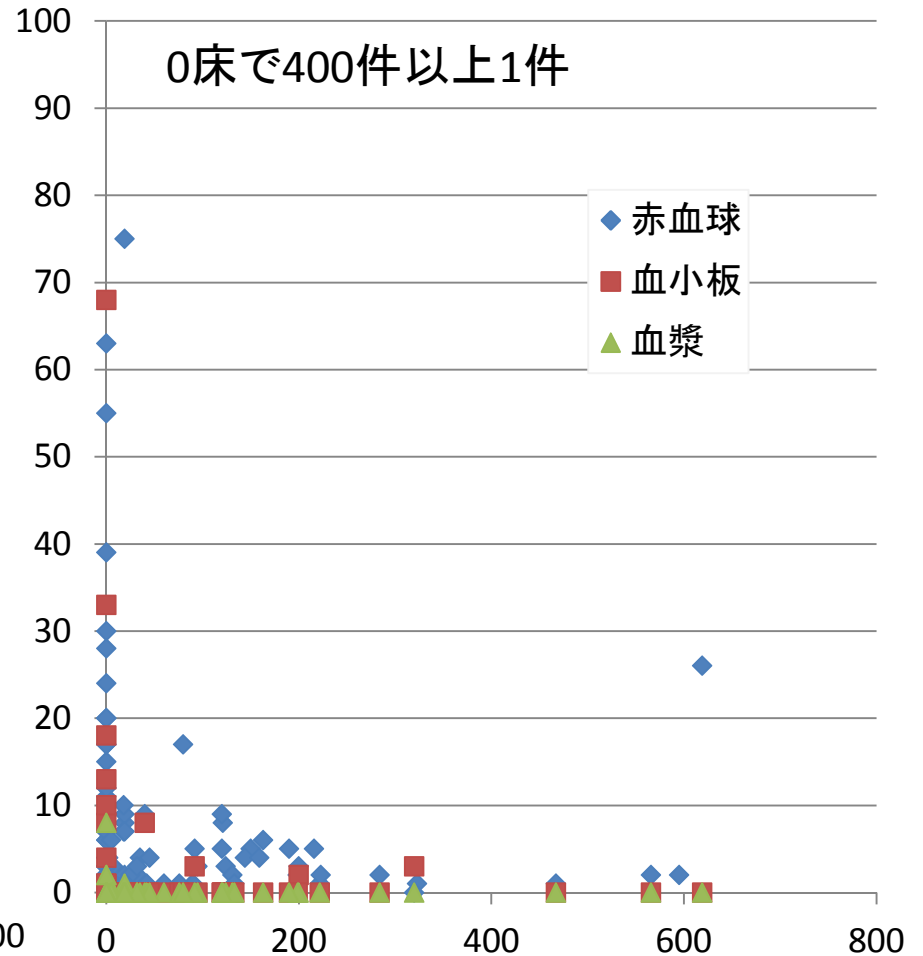
病床数と輸血件数

輸血件数

H27



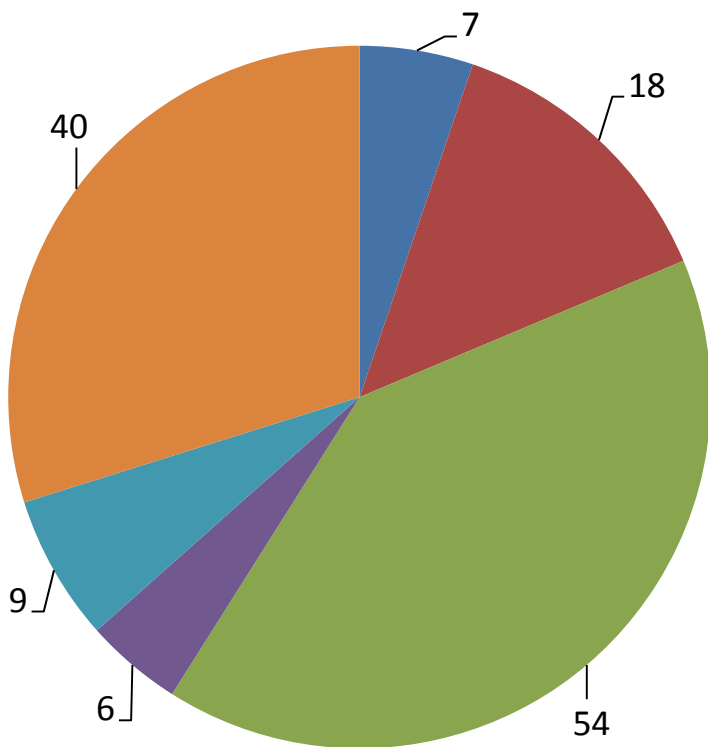
H26



病床数

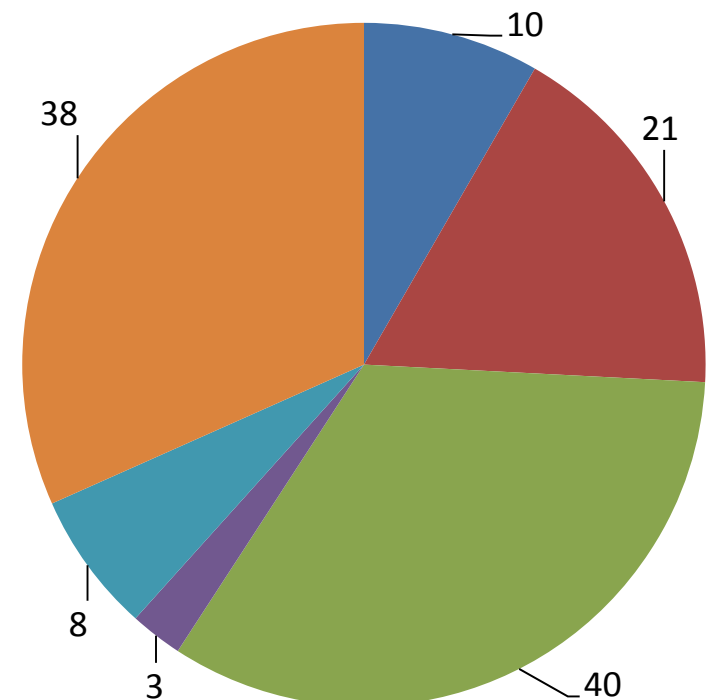
病院外輸血の実施場所

H27



介護施設 40施設
在宅 107施設
N=134

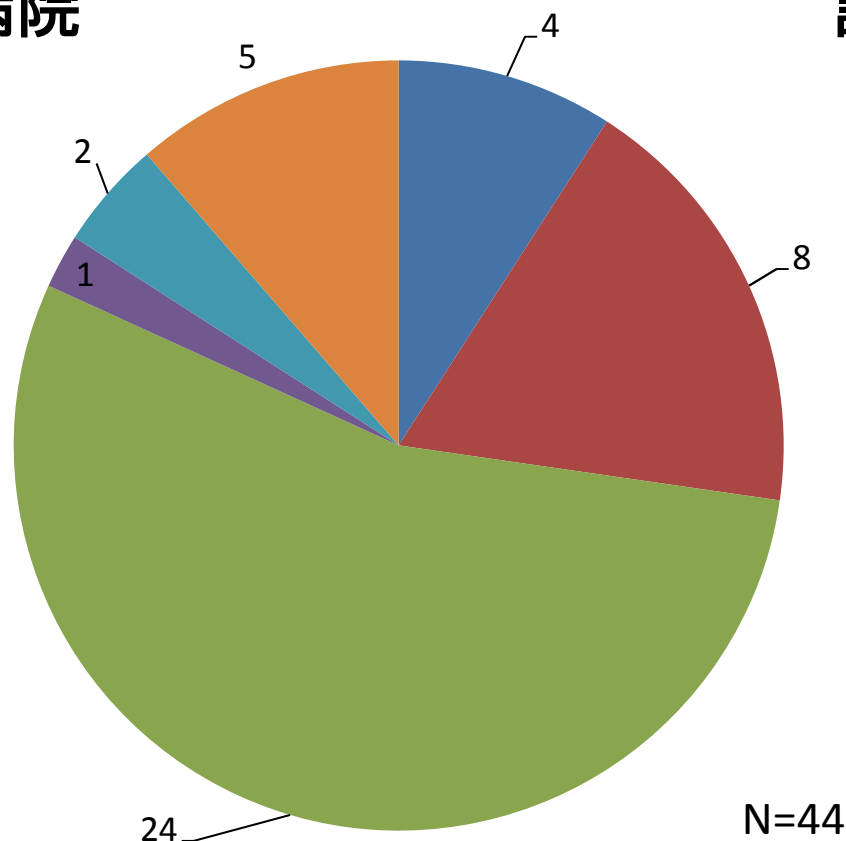
H26



介護施設 42施設
在宅 91施設
N=120

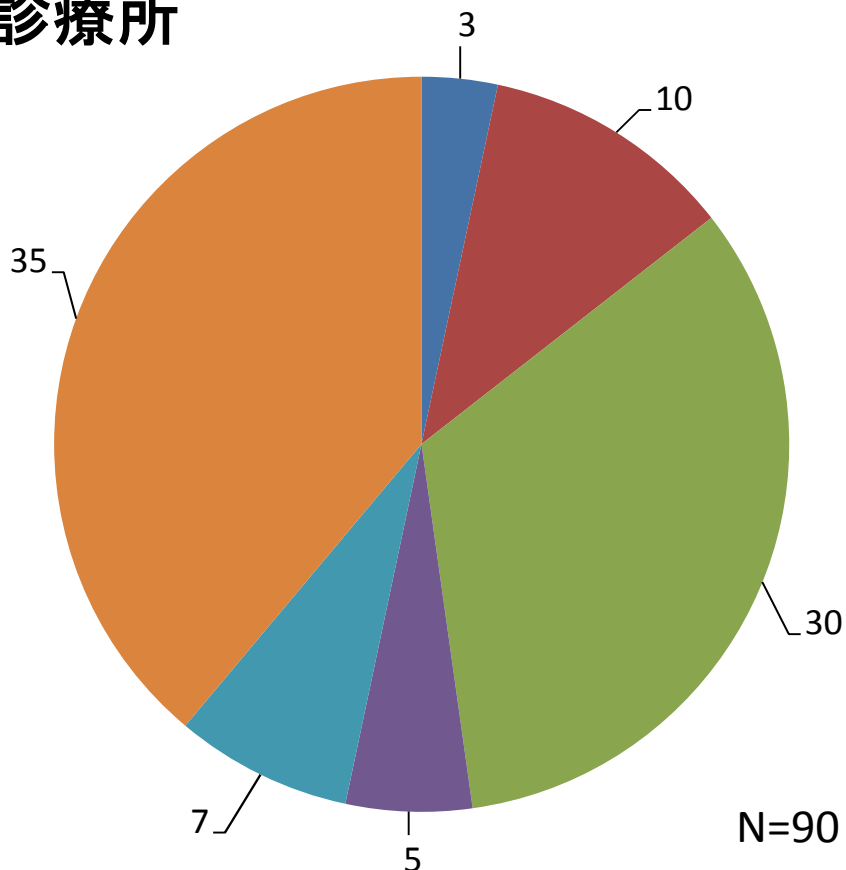
病院外輸血の実施場所

病院



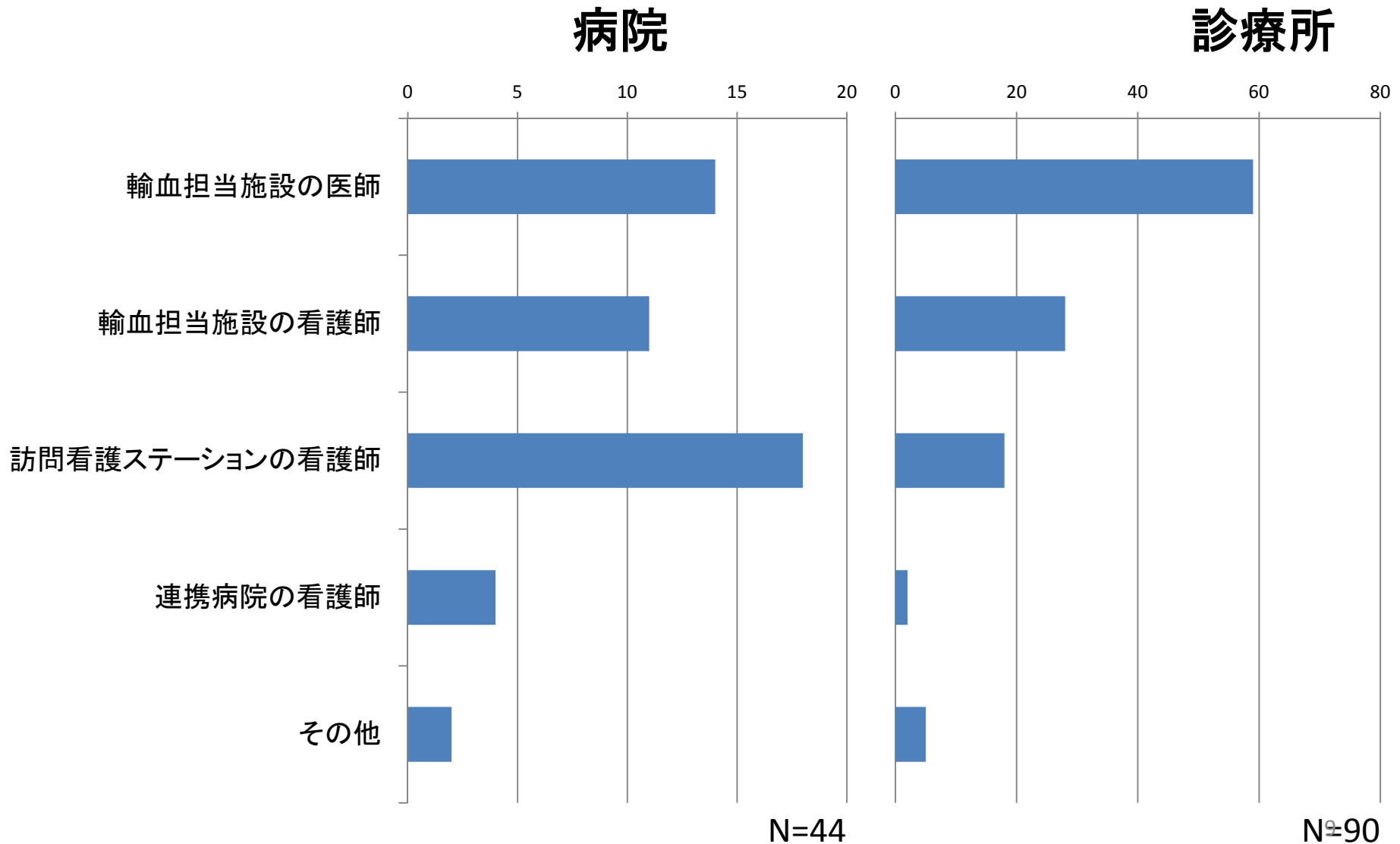
- 関連病院と連携して介護施設・在宅両方で実施した
- 関連病院と連携して在宅で実施した
- 関連病院と連携なく介護施設で実施した

診療所



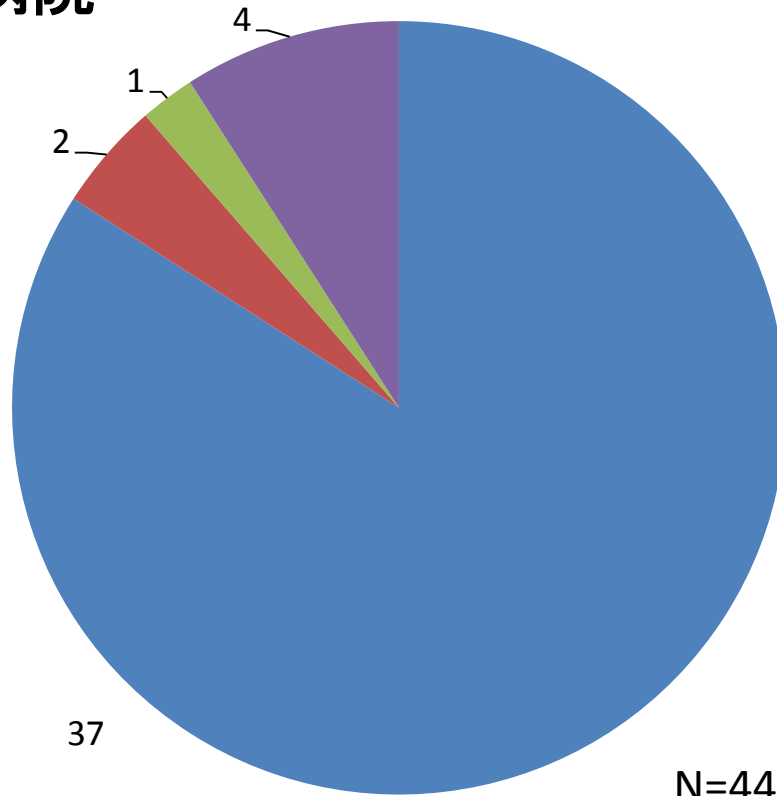
- 関連病院と連携して介護施設で実施した
- 関連病院と連携なく介護施設・在宅両方で実施した
- 関連病院と連携なく在宅で実施した

輸血の実施者

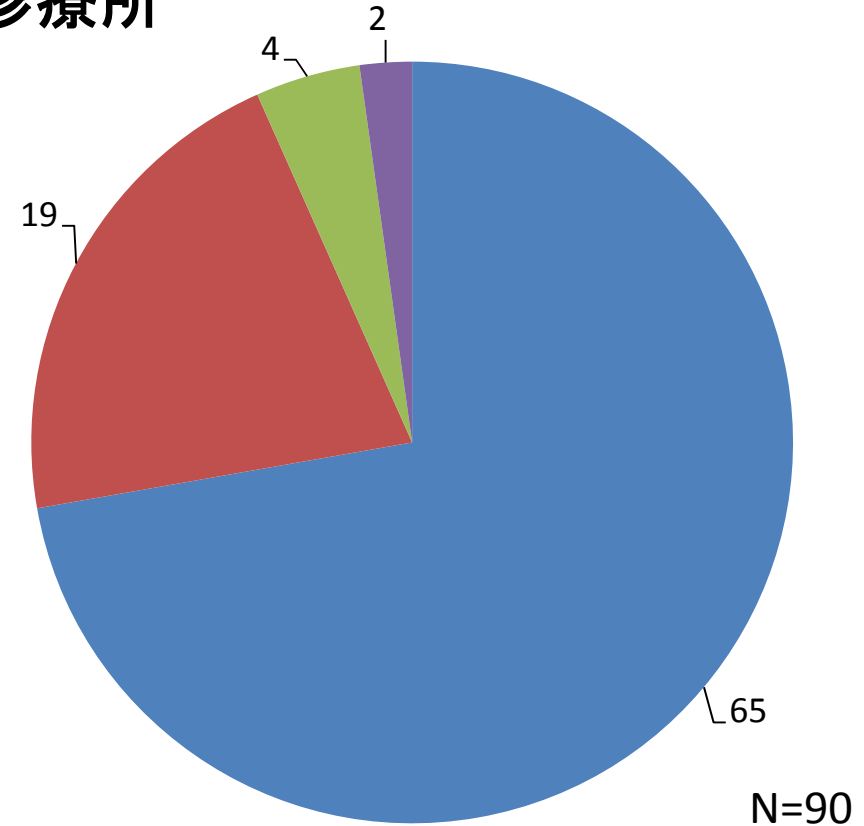


同意と説明

病院



診療所

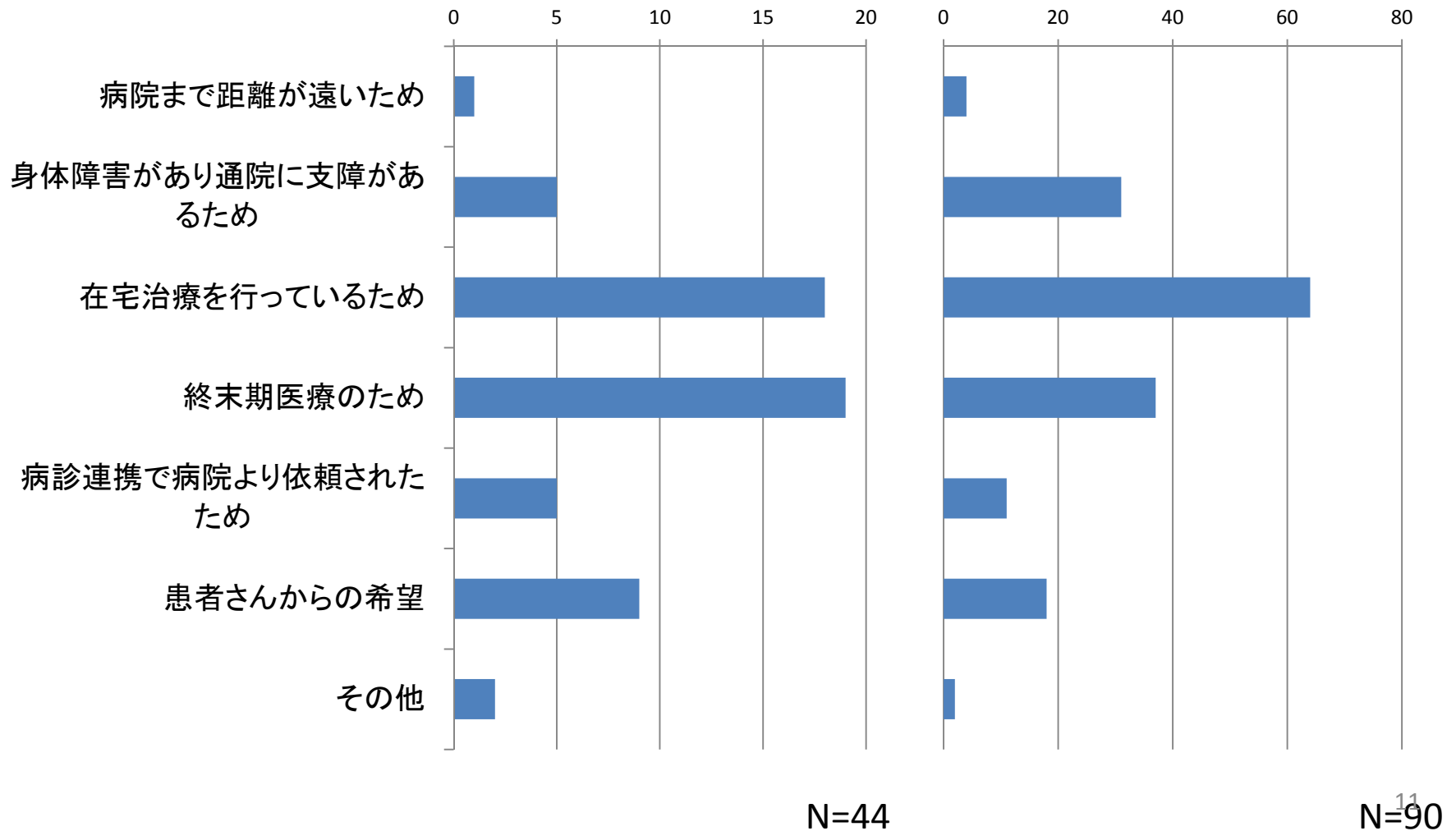


- 病院内輸血と同じ説明・同意書で行っている
- 病院外(介護施設・在宅)輸血用の説明・同意書を別に作成し使用している
- その他
- 未回答

病院外輸血の理由

病院

診療所

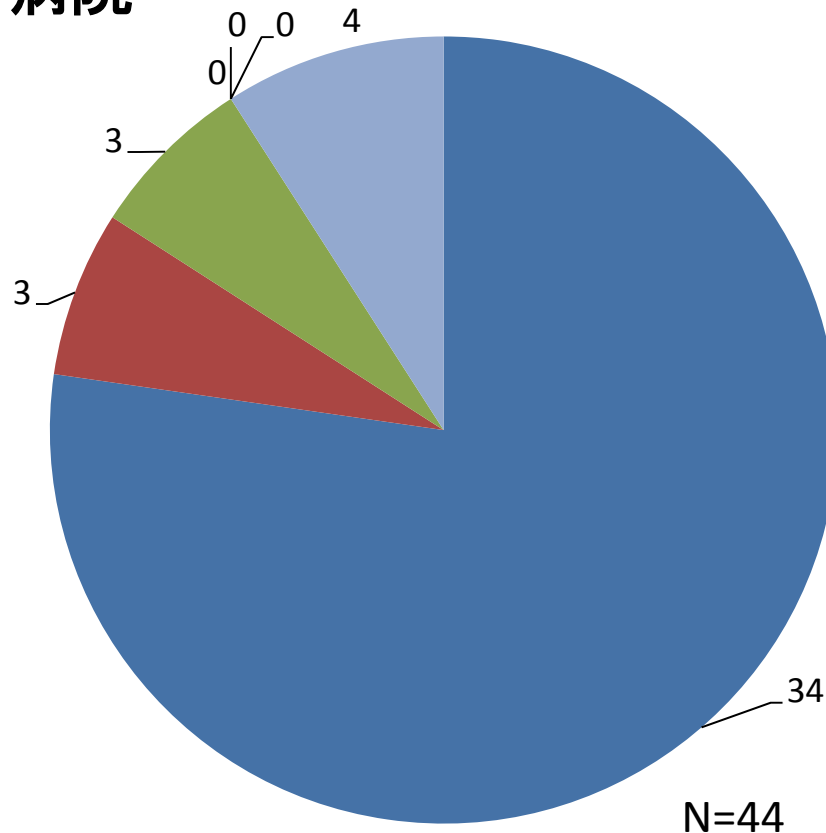


N=44

N=90

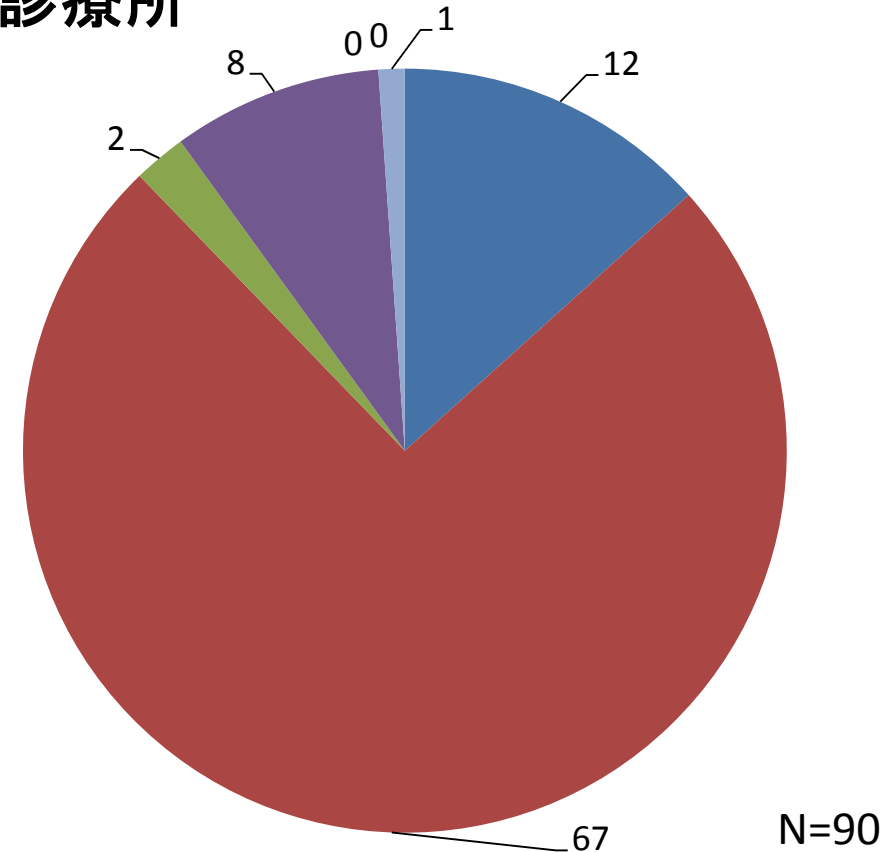
交差適合試験

病院



- 自院で必ず行っている
- 関連病院で必ず行っている
- 症例によって実施したりしなかったりする
- 未回答

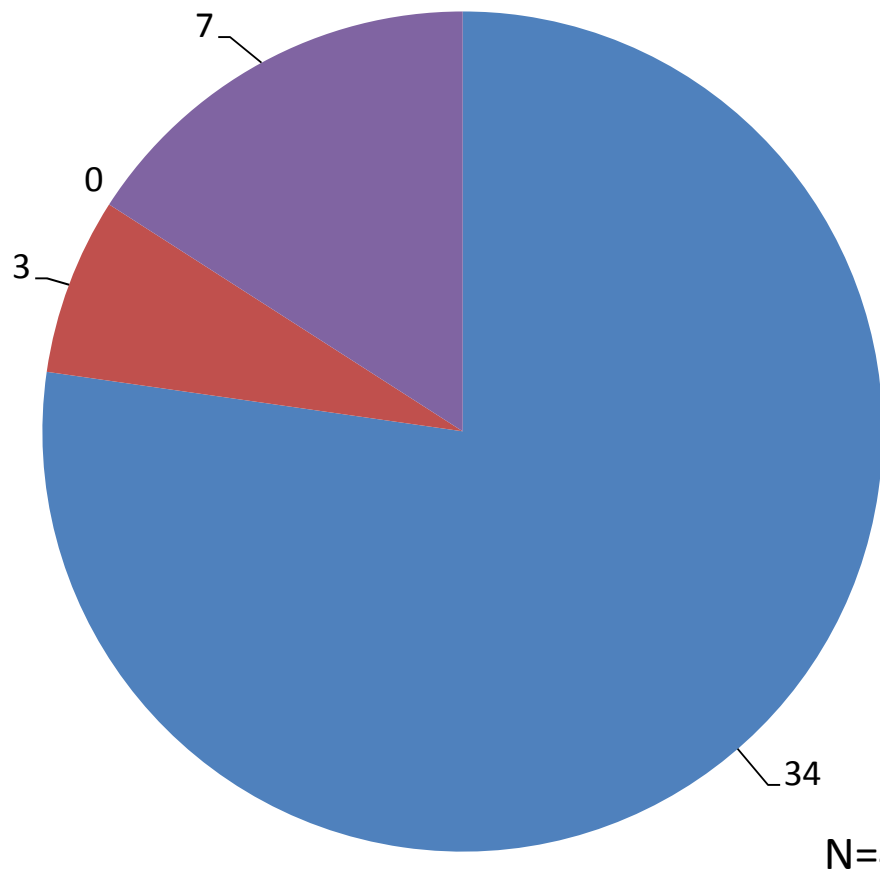
診療所



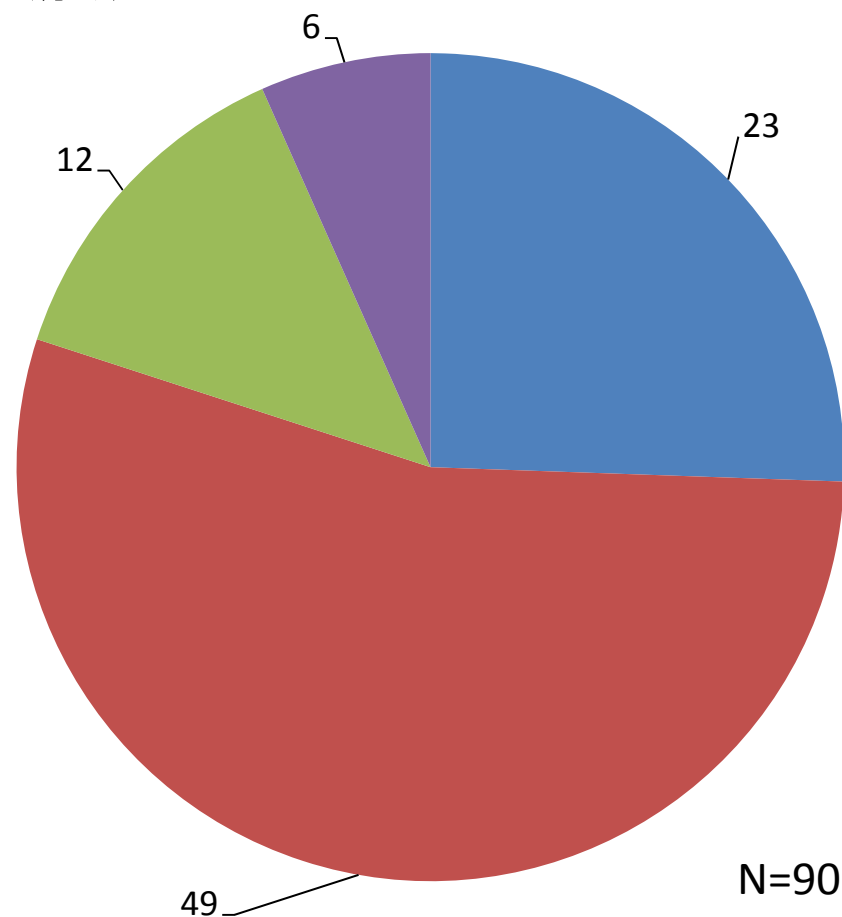
- 院外の検査センターで必ず行っている
- 自院、院外の検査センターもしくは関連病院で必ず行っている
- 実施していない

検体保管

病院



診療所



■ 院内と同様に実施している

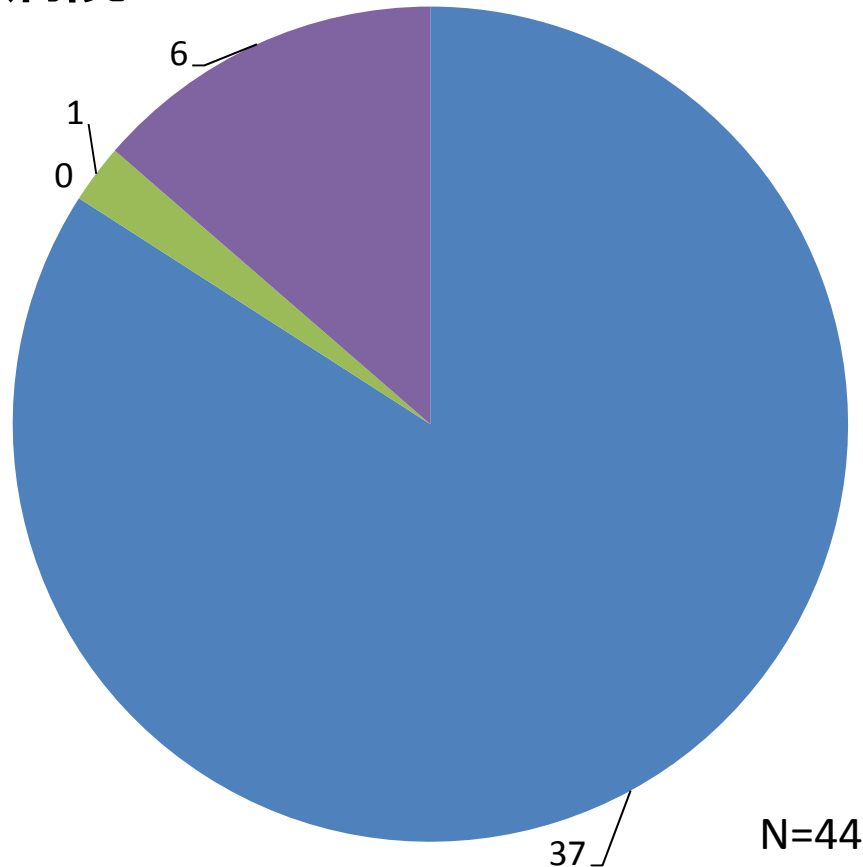
■ ほとんど実施していない

■ その他

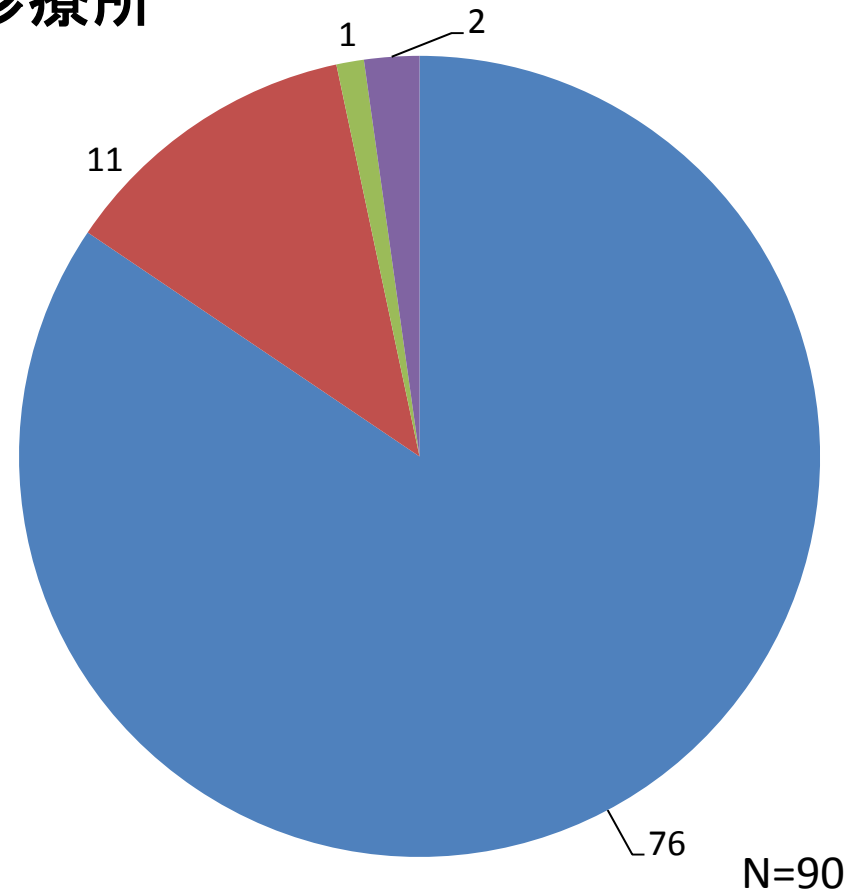
■ 未回答

輸血中の観察

病院



診療所

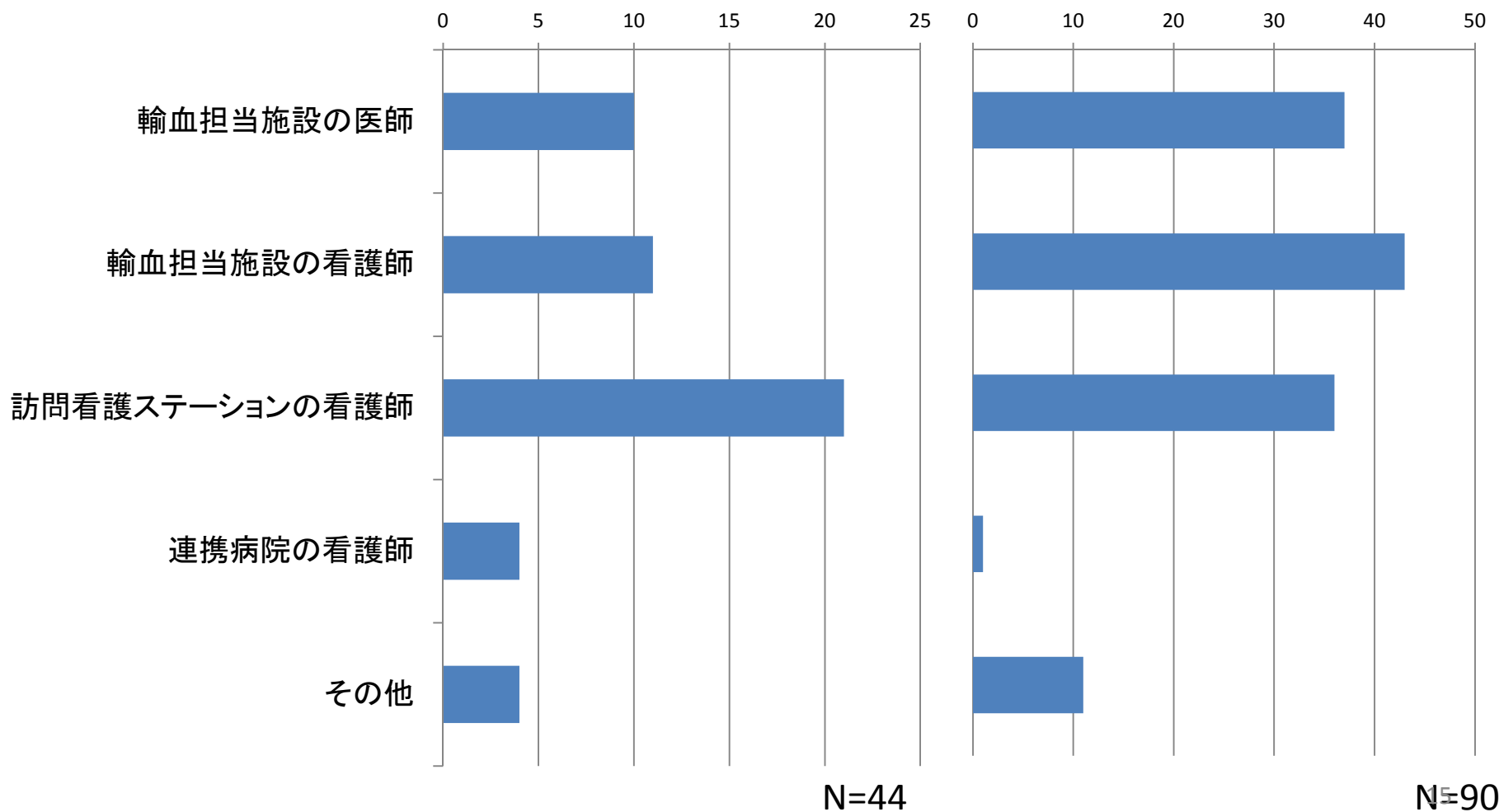


■ 病院内輸血と同様に行っている ■ 不十分ながら担当者が行っている ■ ほとんど行っていない ■ 未回答

輸血中の付き添い者

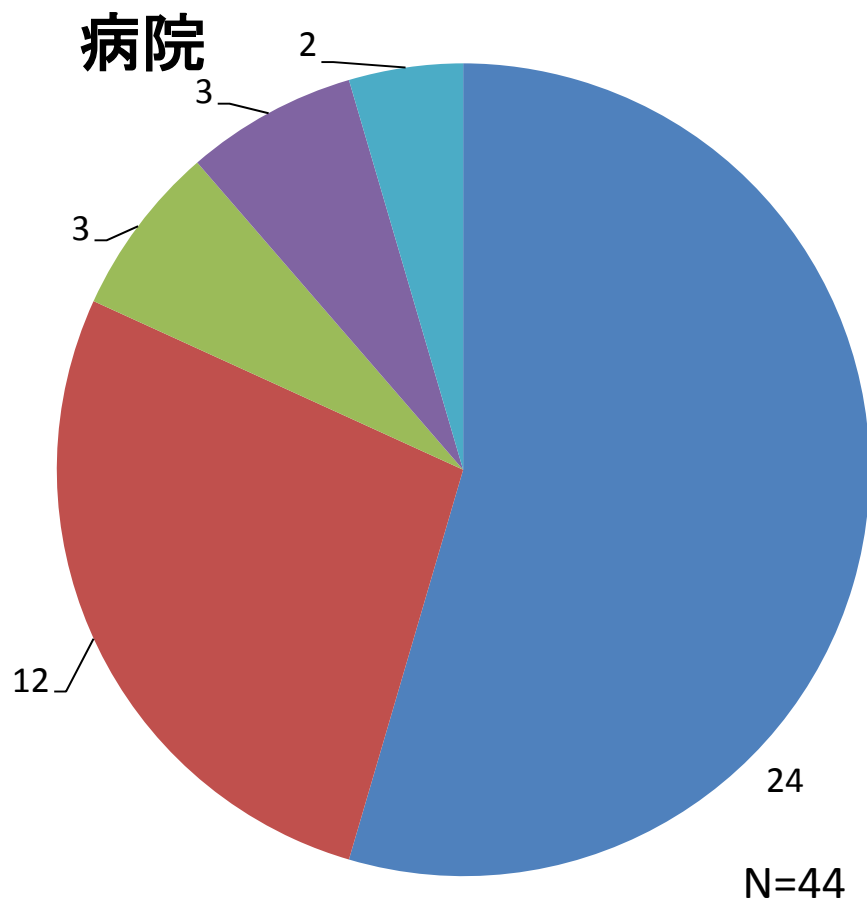
病院

診療所



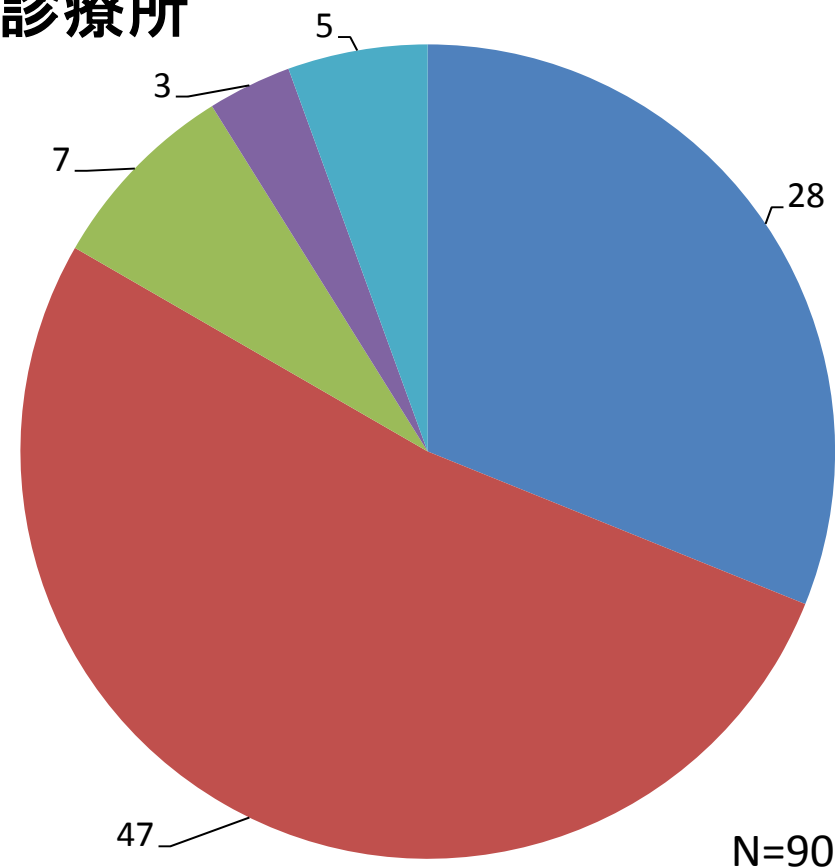
輸血副作用への対応

病院



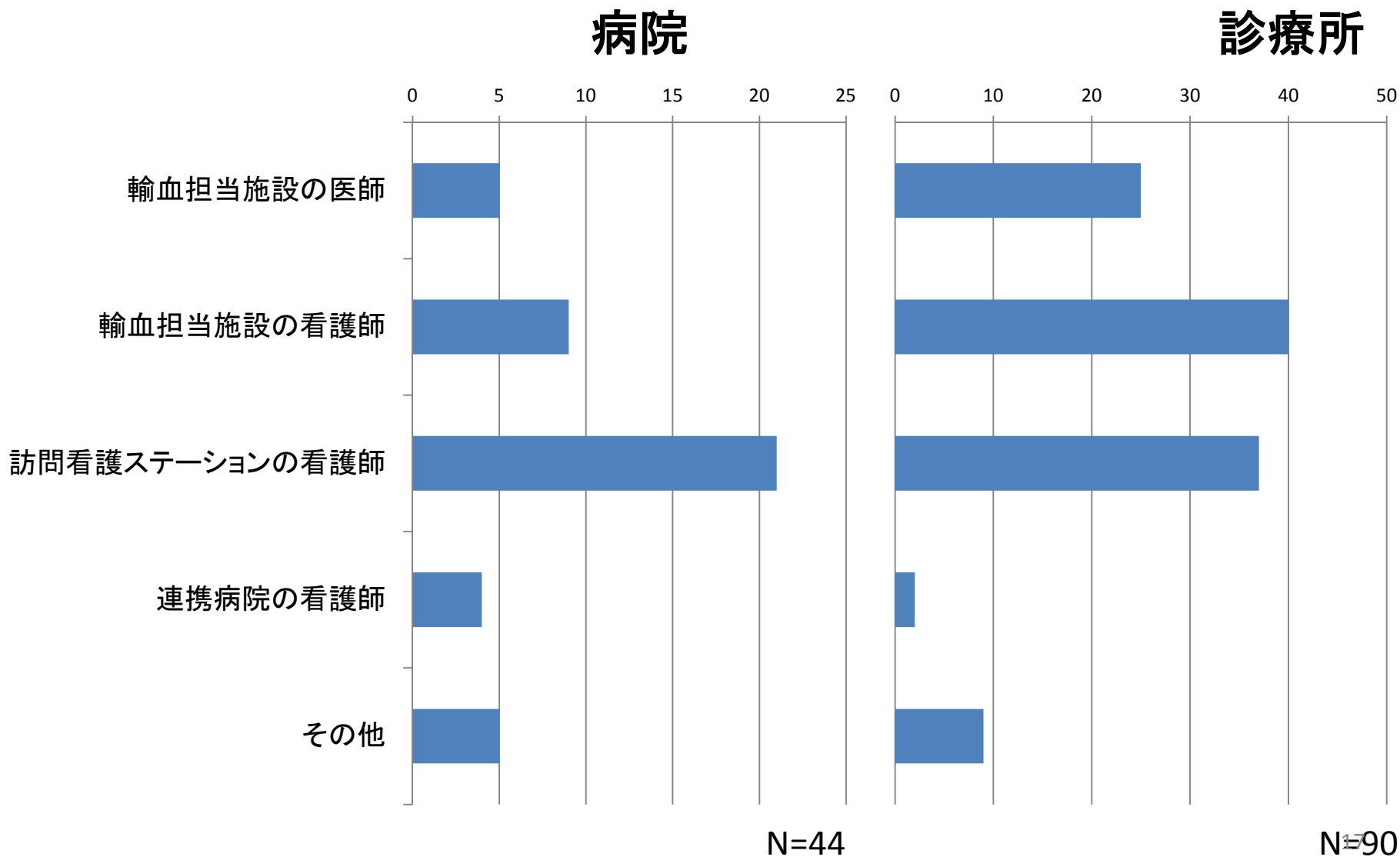
- 病院内輸血と同様に行っている
- 関連病院と連携をとり適切な処置を取るように決めている
- 未回答

診療所



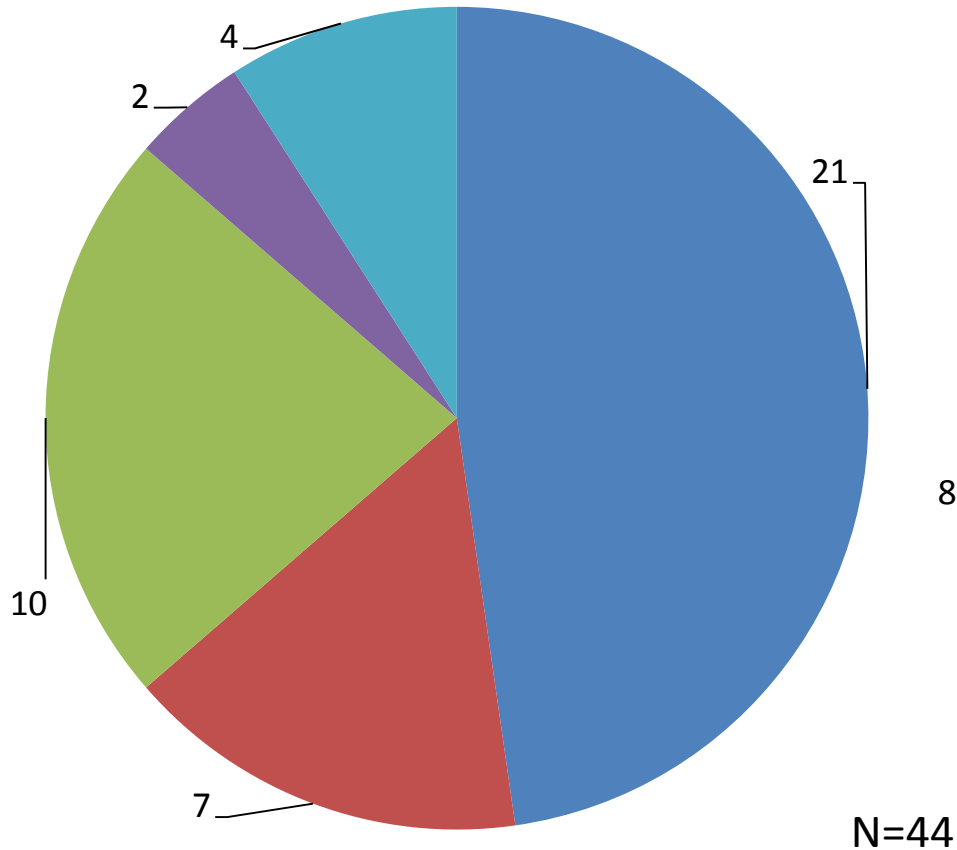
- 連絡をもらい適切な処置をとるように決めている
- 特に決めていない

輸血終了時の抜針

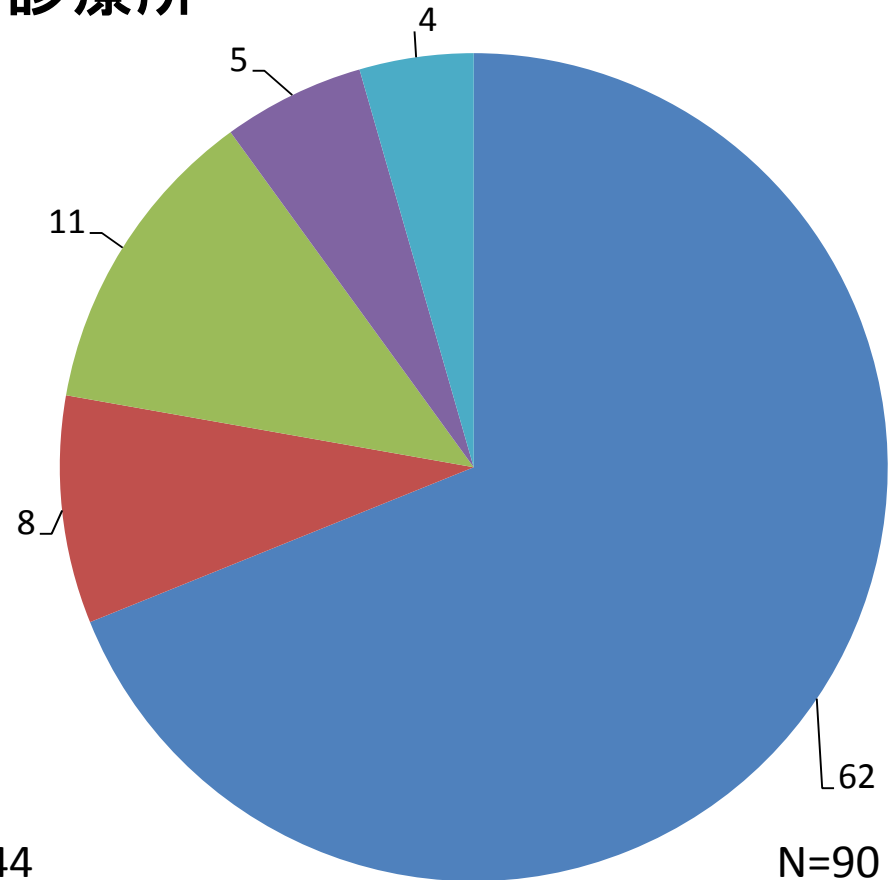


輸血バッグの廃棄

病院



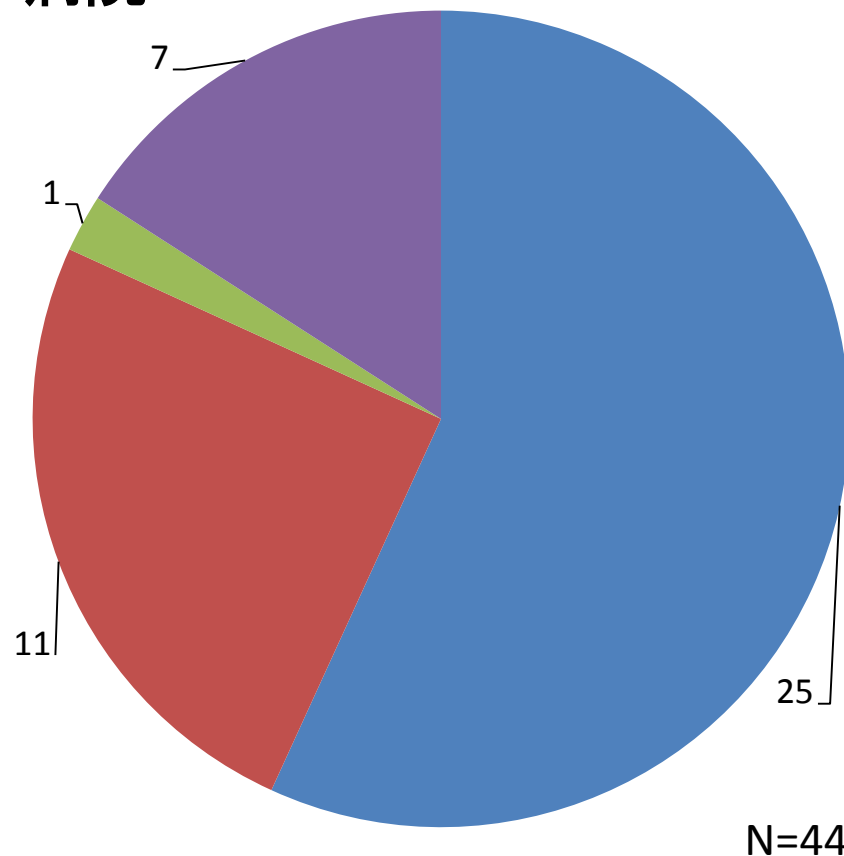
診療所



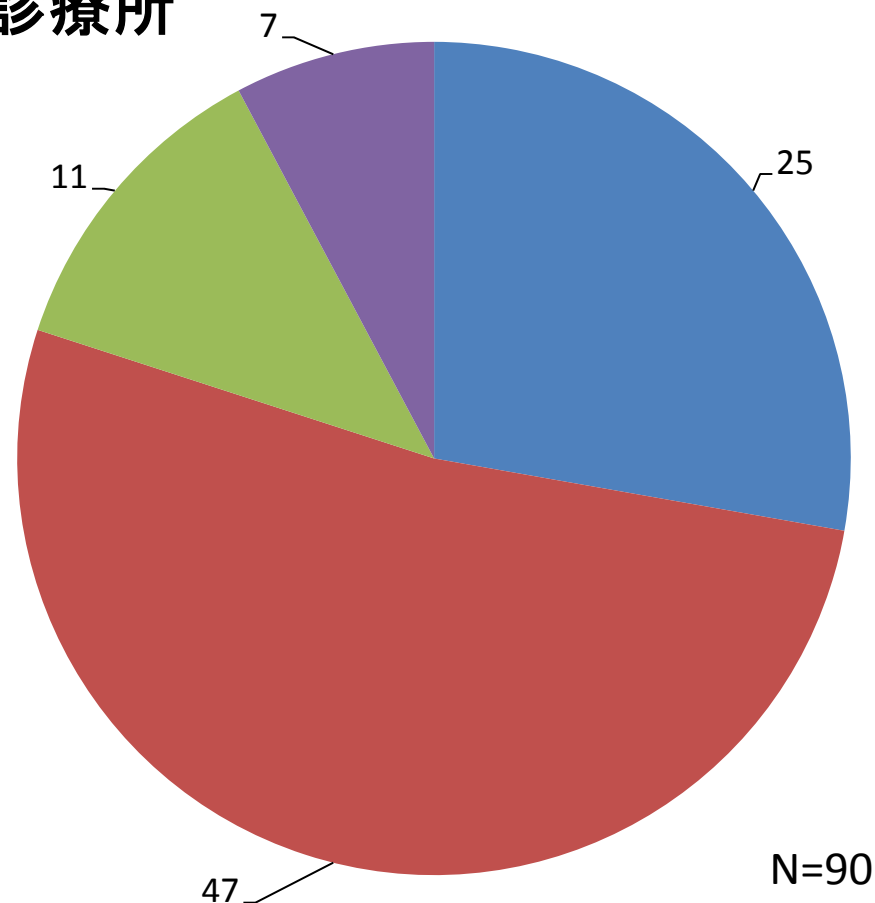
■ 輸血担当施設で廃棄 ■ 訪問看護ステーションで廃棄 ■ 連携病院で廃棄 ■ その他 ■ 未回答

輸血後感染症検査

病院



診療所



■ 院内と同様に実施している

■ ほとんど実施していない

■ その他

■ 未回答

まとめ

- 病院外輸血を実施したと回答した施設は134施設で、平成26年調査よりも14施設増加した。施設形態としては診療所が最多であり、次いで医療法人関連病院であった。診療所は10施設、医療法人関連病院は6施設が増加した。都道府県別検討では、20床以上(病院)と19床以下(診療所)で分けて検討したところ、病院は東京都、大阪府、北海道、19床以下診療所では大阪府、東京都、愛知県、鹿児島県が多かった。病床数と輸血件数を比較したところ、300床以上の施設では実施件数は10件以下で、主に100床未満の小規模病院、診療所での輸血実施が多かった。平成26年には診療所で400件以上の1施設、27件ほど実施していた600床程の病院は、平成27年では目立たなかった。
- 病院外輸血の実施場所は、介護施設が40施設、在宅が107施設(重複あり)で、回答施設は平成26年調査と比較して、介護施設で2施設、在宅で16施設増加した。病院では関連病院と連携して在宅で実施が最多、診療所では関連病院と連携なく在宅で実施、次いで関連病院と連携して在宅で実施が多かった。
- 輸血の実施者は、病院では訪問看護ステーションの看護師が最も多く、輸血担当施設の医師、看護師の順で多く、診療所では輸血担当施設の医師が最も多く、同看護師、訪問看護ステーションの看護師の順であった。
- 同意と説明については、病院では44施設中37施設が病院内と同じ説明・同意書を用いており、病院外輸血用説明・同意書を作成・使用しているのは2施設であった。診療所では、90施設中65施設が病院内と同じ説明・同意書を用いており、病院外輸血用説明・同意書を作成・使用しているのは19施設であった。

- 病院外輸血の理由は、病院では終末期医療のためが最も多く、次いで在宅治療を行っているため、であった。診療所では、在宅治療を行っているため、が最も多く、次いで、終末期医療のため、通院に支障があるため、であった。
- 交差適合試験は、病院では44施設中34施設が自院で実施、院外の検査センター・関連病院がそれぞれ3施設であった。診療所では90施設中67施設が院外検査センターで実施しており、12施設が自院で行っている、8施設が実施場所は特定できないが実施している、であった。検体保管は、病院では44施設中34施設で院内と同様に実施していたが、診療所では90施設中23施設が院内と同様に実施している、49施設は実施していないと回答した。
- 輸血中の観察は、病院では44施設中37施設、診療所では90施設中76施設が病院内の輸血と同様に実施していると回答した。輸血中の付き添い者は、病院では訪問看護ステーションの看護師が最も多かったが、診療所では輸血担当施設の看護師が最も多く、次いで同医師、訪問看護ステーションの看護師の順であった。輸血副作用への対応は、病院では44施設中24施設が病院内輸血と同様と回答したが、12施設が連絡をもらい適切な処置をとるであった。診療所では連絡をもらい適切な処置をとるが90施設中47施設で最も多く、28施設が病院内と同様との回答であった。
- 輸血終了時の抜針は、病院では訪問看護ステーションの看護師が44施設中21施設と最も多く、診療所では輸血実施施設の看護師が90施設中40施設、訪問看護ステーションの看護師が36施設、輸血担当施設の医師が25施設であった。
- 輸血バッグの廃棄は、病院では輸血担当施設が44施設中21施設で最も多く、連携病院で廃棄が10施設、訪問看護ステーションが7施設であった。診療所では輸血担当施設が90施設中62施設と最も多く、連携病院が11施設、訪問看護ステーションが8施設であった。
- 輸血後感染症検査の実施は、病院では44施設中25施設が院内と同様に実施と回答したが、11施設は実施していないと回答した。診療所では90施設中47施設が実施していない、25施設が院内と同様に実施していると回答した。